北九州市 3 歳保育園児の口腔診査と日常生活

内上堀 征 人・牧 憲 司・中 島 龍 市
上 田 秀 朗・松 田 容士子・松 井 秀 成
山 野 博 文・渡 辺 博・岡 裕美子
木 村 光 孝

九州歯科大学小児歯科学講座（主任：木村光孝教授）

平成 3 年 10 月 25 日受理

Oral Health Check and Everyday Life of 3-year-old Children in Nursery Schools in Kitakyushu City

Masato Uchikanbori, Kenshi Maki, Ryuichi Nakashima,
Hideaki Ueda, Yoshiko Matsuda, Hideshige Matsui,
Hirofumi Yamano, Hiroshi Watanabe, Yumiko Oka and
Mitsutaka Kimura

Department of Pedodontics (Director : Prof. Mitsutaka Kimura)
Kyushu Dental College, Kitakyushu, Japan

Three-year-old children in nursery schools in Kitakyushu City were examined for oral health and everyday life as a part of the health check program conducted from May 8 to July 4, 1989.

The results were as follows :

1. The subjects consisted of 102 boys and 84 girls, a total of 186 children, from 3-year-old children in nursery schools in Kitakyushu City.
2. The cases of GI (gingivitis) were 20. Occurrence was more frequent in the maxilla than in the mandible.
3. The percentages of PLI (dental plaque) were a little over 60% for the maxilla and 40-50% for the mandible. By site, A|A in the maxilla and C|C in the mandible showed higher percentages.
4. CI (dental calculus) was the highest for the lower deciduous central incisor.
5. Adhesion of foreign bodies to tooth and completed fillings were found more for the maxilla and rare for the mandible.
6. Of the caries holders, A|A was 18-20% and the mandible 2%.
7. The hour of rising was 7 : 00-8 : 00 on weekdays and 8 : 00-9 : 00 on Sundays and holidays.
8. Bedtime was 21 : 00-23 : 00 on both weekdays and Sundays and holidays.
9. Nap was taken by 80% of the subjects and face washing was done by close to 90%, with

no sex difference.

10. Tooth brushing was done once a day after supper by the vertical and horizontal brushing, with no sex difference.

11. Most of the subjects took meals. A few did not have lunch and nearly all had supper.

12. Sweets were given twice a day always at a fixed place and in a fixed quantity for 70% of the subjects.

13. Chewing gum of Class I, chocolate, caramel, and ice cream accounted for 60% of sweets given.

14. About 30% received dental treatment within the one year.

Key words : Three-year-old children/Nursery school/Gingivitis/Everyday life

緒 言

幼児期の中でもとくに低年齢児は、家庭環境や家庭のおかれている地域社会の様々な条件からの影響を受けやすいため、この時期には適切な歯科保健指導や保護者の口腔衛生に対する姿勢が極めて大切である。3歳児は心身の発育が旺盛であり、乳歯齲蝕の発現にも個体差があり、口腔衛生習慣を形成していく道程でも重要な時期である。

近年、齲蝕の罹患状態は減少傾向にある¹⁻³⁾。今回、我々は北九州市における保育園児の3歳児を対象に口腔診査と日常生活の実態を知る目的で調査を行ったので報告する。

調査対象および調査方法

調査対象は、北九州市保育園児の3歳児（3歳±3か月）で男児102人、女児84人の計186人である。

診査を始める前にあらかじめ調査基準と方法の統一を図るため診査者どうしで検討した。診査は平成元年5月から7月までに行い調査用紙（表1）に記入した。被検歯の条件では齲蝕の状態を次の様に評価した。0；C₀、1；C₁、2；C₂、3；C₃ & C₄。サホライドの有無は関係なし。また修復物について0；修復物なし、1；部分修復、2；全部修復とした。調査項目と判定基準はまず歯肉炎（GI）について、観察部位は近心（M）、遠心（D）、唇側（R）、舌側（L）の4部位の中で、最も程度の高い部位について評価した。また正中部は特別に評価対象とした。0；臨床的正常、1；中等度（軽度の発赤、腫脹と光沢）、2；高度（明らかな発赤と腫脹および潰瘍、自然出血）。次に歯垢（PLI）については探針（No.9）あるいはアプリケーションを用いて、近心（M）、

遠心（D）、唇側（R）、舌側（L）の4部位を観察し、最も程度の高い部位について評価した。0；歯垢なし、1；遊離歯肉縁、隣接する歯面と近接ポケット内に付着、探針で確認、2；ポケット内および近接歯面に多量の歯垢付着。歯石（CI）についてはPLIと同様にして行った0；歯石なし、1；縁上歯石が歯面 $\frac{1}{3}$ 以内、2；縁上歯石が歯面 $\frac{1}{3}$ 以上あるいは縁下歯石の点在、両者の存在。外来付着物（色素沈着）では0がなし、1がありとした。また萌出状態については0；未萌出、1；歯冠 $\frac{1}{2}$ まで萌出、2；歯冠 $\frac{1}{2}$ 以上萌出とした。歯肉からの出血状態では、歯肉全体、辺縁部歯肉を指頭で圧迫し、近心（M）、遠心（D）、唇側（R）、舌側（L）を観察して最も程度高い部位について評価した。0；出血なし、1；出血あり。

また日常生活に関するアンケート用紙（表2）については園児の保護者によって記入されたものである。

調査結果

1）歯肉炎（GI）の発症率

表3に示すように歯肉炎は下顎に比べ上顎が多く、上下顎にわたって発症しているものはない。上顎6.45%、下顎4.30%であった。

2）上顎における歯肉炎、歯垢および歯石の部位別保有率

歯肉炎は上顎ではA（3.28%）で最も多く発症し、歯垢は各部位60%以上の付着率であった。歯石はA（1.63%）での比率が最も高かった（表4）。

3）下顎における歯肉炎、歯垢および歯石の部位別保有率

表5に示す様に下顎における歯肉炎の発症率はC/Cに多く、歯垢はA/Aが40%台、C/Cが50%で、歯

表1 調査用紙

担当校：No. _____ 調査年月日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査者氏名：No. _____

被検者氏名：No. _____ 男₁・女₂ 生年月日：_____ 年 _____ 月 _____ 日生 年齢：_____ 歳 _____ ヶ月

PLI	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL	0 1 2 0 1	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL
C I	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL		0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL
外付物	0 1	MDRL	0 1	MDRL		0 1	MDRL	0 1	MDRL
C I	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL		0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL
出血	0 1	MDRL	0 1	MDRL		0 1	MDRL	0 1	MDRL
萌出	0 1 2		0 1 2			0 1 2		0 1 2	
齲蝕	0 1 2 3		0 1 2 3			0 1 2 3		0 1 2 3	
修復物	0 1 2		0 1 2			0 1 2		0 1 2	
	3 (C)		1 (A)		正中部	1 (A)		3 (C)	
	3 (C)		1 (A)		正中部	1 (A)		3 (C)	
PLI	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL	0 1 2 0 1	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL
C I	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL		0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL
外付物	0 1	MDRL	0 1	MDRL		0 1	MDRL	0 1	MDRL
C I	0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL		0 1 2	MDRL	0 1 2	MDRL
出血	0 1	MDRL	0 1	MDRL		0 1	MDRL	0 1	MDRL
萌出	0 1 2		0 1 2			0 1 2		0 1 2	
齲蝕	0 1 2 3		0 1 2 3			0 1 2 3		0 1 2 3	
修復物	0 1 2		0 1 2			0 1 2		0 1 2	

石は A A に最も多く付着していた。

4) 上顎における外来付着物、出血、修復物、齲蝕および未萌出の部位別保有者率

上顎では外来付着物が A に最も多く出現し、出血は左側の方がなく右側の方に若干現れている。修復物および齲蝕は乳中切歯が乳犬歯に比べ高い比率を示した。萌出状態はほとんど萌出している状態であった(表6)。

5) 下顎における外来付着物、出血、修復物、齲蝕および未萌出の部位別保有者率

下顎における外来付着物、出血および修復物はほとんどなく、齲蝕が2%台で、萌出状態はほとんど完了していた(表7)。

6) 平日の起床時間について

7時に起床する人が男児68.6%、女児63.1%で最も多かった(図1)。

7) 休日の起床時間について

図2に示す様に8時が最も多く平日より1時間遅れている。7時から8時は平日の約半数で、平日、休日関係なく起床していることがわかる。

8) 平日の就寝時間について

図3に示す様に21時から22時が44.1%、22時から23時が30%台であった。

9) 休日の就寝時間について

図4に示す様に21時から22時と、22時から23時がほぼ同率で、平日より少し遅い傾向がみられた。

10) 昼寝と洗面について

図5に示す様に80%が昼寝をしており、洗面は90%近くの人がやっている。

11) 歯磨きの習慣、回数、時間、方法について

図6に示す様に歯磨きの習慣は毎日磨くが、男児

表2 日常生活アンケート

調査年月日：平成 年 月 日
 記入者：本人₁₎ 父₂₎ 母₃₎ 祖父₄₎ 祖母₅₎ 他₆₎
 小児氏名No. _____
 性別：男₁₎ 女₂₎ 生年月日：昭和 年 月 日生
 年齢： 歳 ヶ月

○日常のことについて

- 起床時間 平日 ( ) 時 ( ) 分
 休日 ( ) 時 ( ) 分
- 就寝時間 平日 ( ) 時 ( ) 分
 休日 ( ) 時 ( ) 分
- 昼寝
 する₁₎
 [毎日：( ) 時 ( ) 分～( ) 時 ( ) 分]
 しない₂₎

○洗面について

- する [朝₁₎ (食前₂₎ 食後₃₎ 昼₄₎ 夜₅₎]
 しない₆₎ 時々₇₎

○歯みがきについて

- 毎日磨く₁₎ 毎日磨かない₂₎ 時々磨く₃₎
- 回数： 1 2 3 4 5 以上 (回)
- 時期：起床₁₎ 朝食後₂₎ 昼食後₃₎ 夕食後₄₎ 毎食後₅₎
- 方法：縦磨き₁₎ 横磨き₂₎ 縦横両方磨き₃₎

○食事について

- 朝食：採る (ご飯₁₎ パン₂₎ 他₃₎ _____) 採らない₄₎
- 昼食：採る (ご飯₁₎ パン₂₎ 他₃₎ _____) 採らない₄₎
- 夕食：採る (ご飯₁₎ パン₂₎ 他₃₎ _____) 採らない₄₎

○おやつについて

- 回数 (一日のおやつの回数)：
 0 1 2 3 4 5 以上 (回)
- 時間：規則的
 (午前10時頃₁₎ 午後3時頃₂₎
 午後11時頃₃₎ その他₄₎ _____)
 不規則的
- 場所：決まっている₁₎ 決まっていない₃₎
- 量：決めて₁₎ 欲しいだけ与える₂₎
- おやつでよくとる食物：
 ガム₁₎ チョコレート₂₎ キャラメル₃₎
 アイスクリューム₄₎ カルピス₄₎ ヤクルト₆₎
 ジュース₇₎ ファンタ₈₎ コカコーラ₉₎
 スポーツドリンク₁₀₎ コーヒー₁₁₎ 紅茶₁₂₎
 ビスケット₁₃₎ 菓子パン₁₄₎ サンドイッチ₁₅₎
 ハンバーグ₁₆₎ オムレツ₁₇₎ スパゲティ₁₈₎
 ギョウザ₁₉₎ りんご₂₀₎ みかん₂₁₎ バナナ₂₂₎
 トマト₂₃₎ メロン₂₄₎ キウイ₂₅₎
 その他₂₆₎ _____

○歯科治療について

この一年間歯科治療を受けましたか はい₁₎ いいえ₂₎

表3 歯肉炎 (GI) の発症者率 (186 人中)

上 顎	12	6.45
下 顎	8	4.30
全 顎	0	0.00
(人)		(%)

表4 上顎における歯肉炎 (GI), 歯垢 (PLI) および歯石 (CI) の部位別保有者率 (単位 %)

部 位	A	A	C	C
G I	2.16	3.28	2.15	1.08
P L I	66.49	66.12	66.13	63.59
C I	1.63	0.00	0.54	0.55

表5 歯肉炎 (GI), 歯垢 (PLI) および歯石 (CI) の部位別保有者率 (単位 %)

部 位	A	A	C	C
G I	0.54	0.54	1.62	1.63
P L I	42.4	43.48	53.27	52.18
C I	3.79	3.81	0.0	0.0

表6 上顎における外来付着物; 出血, 修復, 齲蝕および未萌出の部位別保有者率 (単位 %)

部 位	A	A	C	C
外来付着物	1.62	2.73	0.54	1.09
出血	0.54	0.0	0.54	0.0
修復	2.7	3.28	0.54	0.54
齲蝕	20.0	18.03	6.45	2.89
未萌出	0.0	0.0	0.0	0.54

58.6%, 女児 66.2% で女児の方が高かった。時々磨くは男児 36.4%, 女児 27.7%, 磨かないが男児 5.0%, 女児 6.1% であった。

歯磨き回数は, 1 日 1 回が男女とも半数以上で, 男児 63.0%, 女児 57.8% であった。1 日 2 回は男児 29.3%, 女児 34.3% であった (図 7)。歯磨きをする時間についてみるとほとんどが夕食後で男児 70.6%, 女児 71.4%, 次に多いのが朝食後で, 男児 30.4%, 女児

表7 下顎における外来付着物; 出血, 修復, 齲蝕および未萌出の部位別保有者率 (単位 %)

部 位	A	A	C	C
外来付着物	0.0	0.0	0.0	0.0
出血	0.0	0.0	0.54	0.54
修復	0.0	0.0	0.0	0.0
齲蝕	2.72	2.18	2.17	2.17
未萌出	0.0	0.0	0.0	0.0

図1 生活習慣 (起床時間) 平日 (単位 %)

図2 生活習慣 (起床時間) 休日 (単位 %)

35.7%であった (図8)。

歯磨きの方法は縦横磨きが、ほとんどで男児 69.5%, 女児 71.0%, 次に多いのが横磨きで男児 21.8%, 女児 19.8%であった (図9)。

12) 食事について

図3 生活習慣 (就寝時間) 平日 (単位 %)

図4 生活習慣 (就寝時間) 休日 (単位 %)

図5 生活習慣 (昼寝・洗面) (単位 %)

朝食は男児 95.6%, 女児 95.8% がとっており, 昼食では, 男児 99.0%, 女児 100%, 夕食は男児 100%, 女児 98.8% がとっている. とらないをみると, 朝食をとらない小児が最も多い (図10)。

13) おやつ回数, 時間, 場所, 量について

図6 生活習慣 (歯磨き) (単位 %)

図9 生活習慣 (歯磨き方法) (単位 %)

図7 生活習慣 (歯磨き回数) (単位 %)

図10 生活習慣 (食事) (単位 %)

図8 生活習慣 (歯磨き時間) (単位 %)

図11 生活習慣 (おやつの回数) (単位 %)

図12 生活習慣（おやつの時間・場所・量）
(単位 %)

図13 生活習慣（おやつの種類）人数 (単位 %)

図14 生活習慣（おやつの種類）件数 (単位 %)

図 11 に示すようにおやつのは回数 1 日 2 回が最も多く、男児 55.2%、女児 62.0% であった。次に高い値は男女差があり、1 日 3 回が男児 26.5%、1 日 1 回が女児 24.1% であった。おやつを与える時間は、男児 75.1%、女児 78.2% が規則正しく与えており、男児の 24.9%、女児の 21.8% が不規則な与え方をしていた (図 12)。

また決まった場所でおやつをとっているかをみてる

表 8 おやつの方類の内容

分類 1	⇒ガム、チョコレート、キャラメル、アイスクリーム
分類 2	⇒カルピス、ヤクルト、ジュース、ファンタ、コカコーラ
分類 3	⇒スポーツドリンク
分類 4	⇒ビスケット、菓子パン
分類 5	⇒サンドイッチ、ハンバーグ、オムレツ、スパゲッティ、ギョウザ
分類 6	⇒りんご、みかん、バナナ、トマト、メロン、キウイ
分類 7	⇒その他

と男児 78.0%、女児 70.0% が決まった場所ととっていた (図 12)。

おやつをとる量であるが量を決めて与えているが男児 85.1%、女児 80.2% で、欲しいだけ与えているのは男児 14.9%、女児 19.8% であった (図 12)。

14) おやつの方類について

アンケート用紙に記入したおやつを表 8 に示すように 7 つに分類しておやつの方類の傾向をみた。

分類 1 は、ガム、チョコレート、キャラメル、アイスクリーム等、小銭で買える甘いもの。

分類 2 は、カルピス、ヤクルト、ジュース、ファンタ、コカコーラ等の清涼飲料水。

分類 3 は、スポーツドリンク等。

分類 4 は、ビスケット、菓子パン等、粘着性のあるもの。

分類 5 は、サンドイッチ、ハンバーグ、オムレツ、スパゲッティ、ギョウザ等手作りのおやつ。

分類 6 は、りんご、みかん、バナナ、トマト、メロン、キウイ等の果物である。

分類 7 は、その他とした。

おやつでよくとる食物として選択してもらったので、人数と件数でその傾向をみた。おやつの方類別では、第 1 類、第 6 類、第 4 類の順であった。第 1 類は、男児 37.3%、女児 39.5%、第 6 類では、男児 21.7%、女児 18.5% であった (図 13)。件数別では、第 1 類が圧倒的に多く男児 54.4%、女児 63.0% であった。2 類がその次に続き男児 15.1%、女児 14.8% であった。手作りおやつが最も低い値である (図 13、図 14)。

15) この 1 年間に歯科治療の経験があるかどうかにつ

図15 生活習慣 (この1年間の歯科治療)
(単位 %)

いて

図15に示すように、受けていない園児の方が多く男児66.7%、女児69.0%であった。

考 察

3歳保育園児の生活習慣や口腔診査に関する報告についてみると、口腔診査では、Tauraら(1990)⁴⁾、長谷(1989)⁵⁾ら、日野出ら(1988)⁶⁾、佐々木ら(1987)⁷⁾、埼玉県公衆衛生研究会ら(1987)⁸⁾、石井ら(1986)⁹⁾、石井ら(1985)¹⁰⁾の報告があり、生活習慣のアンケート調査結果は多数報告されている^{5, 6, 9, 10-13)}。過去の研究者の報告と今回行った著者らの口腔診査と日常生活の調査結果について考察する。

1. 口腔診査

歯肉炎の発症者率は、昭和50年¹⁾、昭和56年²⁾、昭和60年³⁾の厚生省歯科疾患実態調査では5歳児以上の報告はあるが、3歳児についてはみられない。歯肉の状態については、昭和38年からの調査では5歳児以上³⁾である

が、いずれも調査方法が異なっており、過去の調査との比較は困難である。齲蝕から歯肉炎へ、歯科疾患の推移を示すものと示唆されるが、今回の我々の調査では、結果からみると、3歳児保育園児の歯肉炎の調査、歯肉炎の低年齢化に注意する必要があると思われる結果が得られた。

歯垢および歯石についてみると、歯垢の測定と検査方法が異なっているが、黒川ら(1987)¹²⁾の報告では、齲蝕活動試験での結果で一群、+群が増加し、+群、+群が減少する傾向を示し、保育園児の減少傾向を示し、都会に比べ地方は減少している報告をしている。今回の調査では下顎より上顎の方が歯垢の付着率が高く、歯垢は下顎の乳中切歯部の付着率が高いことを示した。厚生省の歯科疾患実態調査報告¹⁻³⁾をみても調査対象者が5歳以上で永久歯が対象の報告である。石井ら(1985)¹⁰⁾は染め出しでスコアを出して判定しているがスコア0が6.3%で歯垢が付着しているものの合計が92.1%と効率を示している。保健所における検診なので、保育園との比較にはなりにくい。今回の結果と比較すると、北九州保育園児の付着率が低い値を示した。

外来付着物、出血に関しては比較すべき報告がない。齲蝕の有無についてみると、一番新しい実態調査³⁾では、齲蝕のない者33.3%、齲蝕のある者総数で66.7%、その中で処置完了者が5.6%、未処置の者が44.4%、処置歯、未処置歯を併有する者16.7%であり、今回と比較すると齲蝕罹患率の高い臼歯部がはいっていない。

2. 生活習慣

起床時間、就寝時間、昼寝、洗面について考察してみると、津田ら(1989)¹³⁾は早寝早起きなどの規則正しい生活をしているかどうかという問いかけで、59%が規則的、41%がやや不規則であるとし、親にあわせた生活態度がみられた。今回では同じく、就寝時間にその生活態度が顕著に表れていると思われる。

歯磨きの習慣をみると、長谷(1989)⁵⁾によれば北九州地区よりも横須賀市の方が、3歳6ヶ月児で毎日磨くが75.9%、毎日磨かないが22.2%、磨かないが0.9%で、磨く比率が高くなっている。厚生省歯科疾患実態調査³⁾(1~4歳までの平均)によって全国平均と比較すると毎日磨く79.39%、時々磨く15.88%、磨かない4.73%で、北九州地区は時々磨くが全国平均よりも高い値を示し、磨きの徹底が甘いようである。石井ら(1986)⁹⁾の報告では広島市の場合、毎日磨いているが61.9%、時々磨いているが20.1%、磨いていないが16.8%で、毎日磨いているが北九州とほぼ同率であった。中村

(1983)¹¹⁾の東京都内と比較してみると、毎日磨くか磨かないかの問いに対して、毎日磨くが50.8%、磨かないが49.2%で、北九州地区の方が高い比率を示した。これは保健所での調査であるが保育園児を対象にした津田ら(1989)¹³⁾の東京都内をみると、毎日磨くが59%、磨かないが、24%で、北九州地区とほぼ一緒であった。

歯磨き回数をみると、昭和62年歯科疾患実態調査報告³⁾の1～4歳で1日1回が42.9%、1日2回が26.2%、1日3回以上が10.3%、長谷(1989)⁵⁾の3歳6ヶ月児では、1日1回が61.0%、1日2回が31.0%、1日3回以上が4.1%で、ほぼ同じような傾向を示している。

歯磨き時間では、津田ら(1989)¹³⁾と比較してみると、朝食前9%、朝食後36%、昼食後15%、夕食後60%で、北九州地区と類似していた。

歯磨き方法の調査では長谷(1989)⁵⁾が、歯ブラシ以外の清掃法として、ガーゼ、脱脂綿(0.2%)食後に水を飲ませる(29.1%)、ブクブクうがいさせる(21.1%)などの報告を示している。

3) おやつ

おやつの回数からみると、2回が最も多い。長谷(1989)⁵⁾の報告でも2回が65.8%そして1回の23.2%で、同じ傾向を示している。日野出ら(1988)⁶⁾の報告では2回が58.9%、3回以上が28.9%、1回が11.0%で、1回が他より低率を示している。佐々木ら⁷⁾は、間食回数は1日1回にとどめる傾向にあることを報告している。津田ら(1989)¹³⁾の報告では1回が45%、2回が42%、3回が11%で、同じく少なく与える傾向を示している。

おやつを与える時間、場所、量をみると、横須賀市の報告⁵⁾では、「決めている」「だいたい決めている」が78.0%、決めていないが21.6%で、北九州地区と変わりが無い。摂取場所も同じくみると決まった場所が69.5%、遊びながら28.7%と、ほぼ同率である。日野出ら(1988)⁶⁾の報告をみると決まった場所が58.4%、遊びながら41.6%で、遊びながらが北九州地区より2倍近い比率である。石井ら(1986)⁹⁾、(1985)¹⁰⁾の報告では、決まった場所が60.3%、決まっているが38.5%で、中村(1983)¹¹⁾の報告では規則的が53.6%、不規則が46.4%、津田ら(1989)¹³⁾の報告では、規則的が59%、不規則が35%と、大方規則的である。

おやつの種類をみると、長谷(1989)⁵⁾は菓子類と飲料類に分け、果物、ポテトチップス、アメ、キャンディーの順を挙げ、又、牛乳、乳酸飲料、市販天然

ジュース、市販ジュースであったと報告している。佐々木(1987)⁷⁾は、乳酸飲料の摂取が減少傾向にあり、天然ジュース、自家製ジュースなどの増加を報告している。石井ら(1986)⁹⁾、(1985)¹⁰⁾は、食事に影響しない程度の量で、甘味、塩分を控えた手作りの固形で粘着性の少ないおやつを奨め、菓子袋ごと与えることなく、その後の口中の清掃、含嗽するよう報告している。黒川ら(1987)¹²⁾の報告では新潟市でせんべい、広神村でアイスクリーム、チョコレート、ジュースが高い値を示している。津田ら(1989)¹³⁾は、おやつとして与えることの多い食品として飲物、おかし、果物の順に挙げ、おかしの中では、せんべい、スナック、プリンを、飲み物の中では、牛乳、番茶、ジュース、生ジュースの順となっている。やはり母親手作りのおやつが少ないことが注目される。

結 論

平成元年5月8日から、7月4日にかけて実施した北九州市の3歳保育園児の口腔診査と日常生活から得られた結果は、次の通りであった。

1. 北九州市、3歳保育園児で、男児102名、女児84名の計186名を対象とした。

2. GI(歯肉炎)の発症者数が全体で20名で、下顎よりも上顎の方が多かった。

3. PLI(歯垢)は上顎が60%強、下顎が40～50%の保有者率で、部位別では、上顎がA|A、下顎がC|Cの比率が高かった。

4. CI(歯垢)は、下顎乳中切歯部が最も多かった。

5. 外来付着物、修復終了は、上顎に多く、下顎は、ほとんどない。

6. C(齲蝕)保有者率はA|Aが、18～20%で、下顎は2%であった。

7. 起床時間は、平日が7時～8時で休日が、8時～9時が多かった。

就寝時間は、平日、休日ともに21時～23時であった。

昼寝は80%、洗面は90%近くで、男女差はなかった。

8. 歯磨きの習慣は、毎日1回、夕食後、縦横磨きが多く、男女差はなかった。

9. 食事は、ほとんどとっており、昼食をとらない人は少なく、夕食は、ほとんどとっていた。

10. おやつは、1日2回、規制的に決まった場所で、量も決めた与えている人が70%であった。

おやつの種類は、1類のガム、チョコレート、キャラメル、アイスクリームが60%であった。

11. この1年間に、歯科治療を受けた人は約3割であった。

引用文献

- 1) 厚生省：歯科疾患実態調査報告（昭和50年）口腔保健協会
- 2) 厚生省：歯科疾患実態調査報告（昭和56年）口腔保健協会
- 3) 厚生省：歯科疾患実態調査報告（昭和62年）口腔保健協会
- 4) Taura K, and Shimada Y: 視診型と透視診査による乳臼歯隣接齲蝕の検出について. 口腔衛生会誌 40: 60-65, 1990.
- 5) 長谷則子: 乳幼児歯科検診に関する研究 I (アンケート調査結果について). 神歯学 23: 525-536, 1989.
- 6) 日野出大輔, 島田順子, 小原英司, 寺井 浩, 山崎都美恵, 和田明人, 佐川 肇, 佐藤 誠, 中村 亮: 3歳児の乳歯齲蝕罹患に関する要因の分析. 口腔衛生会誌 38: 631-640, 1988.
- 7) 佐々木雅子: 乳幼児歯科検診に関する研究. 3歳児の齲蝕罹患の年次的変化について. 小児歯誌 25: 693, 1987.
- 8) 埼玉県公衆衛生研究会, 埼玉県医師会母子研究委員会: 埼玉県における乳幼児健康審査の実態調査 II 小児科医の役割. 埼玉医誌 21: 1253-1256, 1987.
- 9) 石井のり子, 中野愛子, 岡田小織, 下里常弘, 正法地孝雄, 篠原正気, 谷口昭夫: 保健所における幼児の歯科検診結果について: 広歯誌 18: 331-337, 1986.
- 10) 石井のり子, 中野愛子: 広島市安佐北保健所における歯科検診の現象について昭和59年度. 日歯衛学誌 14: 17-22, 1985.
- 11) 中村義昭: 3歳児における歯科保健状況が6歳児齲蝕罹患に及ぼす影響について. 歯学 71: 606-618, 1983.
- 12) 黒川 泉, 小川さゆり, 小菅真美, 成田恵理子, 高木みどり, 下岡正八: 広神村の保育園児と新潟市の保育園児の齲蝕罹患状況による比較 II. 歯学 75: 432-433, 1987.
- 13) 津田忠政, 明石るり子, 須永照久, 古畑 升, 久松正洋, 小早川幸雄, 殿岡 泰, 菅 真一, 岡村ナヲ: アンケート方式による地域保育園児の歯の健康調査. 歯界展望 73: 639-650, 1989.